

古希を迎える年齢になると、物忘れが激しく記憶力の薄れにも悲しくなる。日本でないことだけは確かなのだが、さてどこの国だったか、思い出すことは叶わないが不思議と古くから言い伝えられている、その国の諺だけは覚えている。

「犬はわが友、妻はわが敵、息子はわが師」朝夕の散歩は毎日同じ道の繰り返し。食べ物もこれも毎日同じ餌。決して刺身で一杯とか、偶には花見にでもなど、要求しない。鎖につながれている時間が一日のうち圧倒的に長いのに耐え忍んでいる。それだけに主が帰宅すると尻尾を振り飛びかからんばかりに体一杯に喜びを表現する。猫は家につき、犬は人につくと言われ飼い主をリーダーの様にしたいという本能があるという。まさにわが友に相応しいということか。

幼き息子は時折、父親の仕種を真似る。良きことは別にして悪しき仕種なら「お父さんの真似をして」母親からの叱責がとぶ。息子の仕種を見て襟を正すということなのか。

さて妻はわが敵とはどんな意味を含んでいるのだろうか。粗大ゴミ扱いされているのを恨んでのことなのか。しかし、待てよ、粗大ゴミの表現は遠い昔からのことではなかったはず。あるいは身勝手な我が儘ぶりに対する警告を込めて、ある種の緊張感を保つために敵と対峙するような気持ちで逆説的な意味合いで妻と接すれということなのか。

諺に秘められた正解は未だ得ていない。どなたか知恵をお貸し下さい。

T・S



実姉の挨拶



H13. 3. 15 校舎1棟4教室と全児童1500名の出迎え



校舎近くの校庭での休憩時間のコマ



授業室内休憩の一コマ

2月10日例会：家族週間 地区家族委員会委員長 梨木建夫会員

2月17日例会：卓話「日本の踊りについて」花柳雅鶴様



Lend a Hand

会長／山本 賢
幹事／西山 齊
SAA／小林 繁男

三条北ロータリークラブ週報

手を貸そう

例会日
2004. 2. 3
累計 No 836
当年 No 29

国際ロータリー会長 ジョナサンB.マジアベ 第2560地区ガバナー 原 信一
ホームページ <http://www.rotary2560.net>

例会日／火曜日 12:30～13:30
例会場／三条ロイヤルホテル TEL34-8111 FAX34-8114
事務局／三条市西四日町3-15-34 ヒューマン・ハーバー内
TEL35-7160 FAX33-8972
メールアドレス north@sanjo-nrc.org ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org>

行事： 新入会員入会式

「世界理解月間」卓話「3年前カンボジア国プノンペン市に建設した小学校々舎を振り返って今なすべきこと」 新潟大学名誉教授 原 耕二先生

出席： 本日の出席 59名中 42名

先々週の出席率 59名中 46名 77.97% (前年同期80.0%)

先週のメイクアップ： 1月29日 燕RCへ 中條耕二さん、石川勝行さん、岡田 健さん
高橋彰雄さん

2月2日 三条南RCへ 中條耕二さん、笹原壮玄さん、羽賀一夫さん

ゲスト： 新潟大学名誉教授 原 耕二先生

(医)嵐陽会三之町病院歯科医師 山本みちこ様

ビジター： 米山奨学生チュドリー・エムディ・ズバエル・アクタル君

会長挨拶： 山本 賢会長



今日は先週に引き続きNHKで放送された寿命の番組について話させていただきます。

世界の平均寿命は65.2歳で、日本は第1位で81.9歳です。世界で一番平均寿命の短い国はアフリカのシエラレオネの34.0歳です。数字を見てもわかるように、豊かさや貧しさによる寿命の格差が見えてくると思います。

シエラレオネではダイヤモンドの利権をめぐる内戦の影響で田畑が荒れ、作物がとれないため、貧しさによる栄養失調やマラリアなどで5歳を

迎えるまでに4人に1人の子供たちが死ぬとされています。子供の死亡率が非常に高いのです。

NGO国境なき医師団のマグブラカ中央病院では栄養失調に加えマラリアや肺炎を併発し、2日に1人の子供が亡くなっているのが現実です。その病院にタッカー君(2歳)とその母親は30kmの道のりを2日間何も食わず、ただ生きたいが為に歩き続けました。しかも重症の栄養失調で2歳児の平均体重が13kgに対し5.7kgしかなく、肺炎も併発しているにもかかわらずです。

また、内戦で親を亡くしたりして傷ついた子供たちを受け入れている学校に日本人の根岸美智子さ

んがいらっしゃいます。現在66歳で20年間そこで携わっておられる根岸さんはこうおっしゃっています。

「子供たちはお腹をさする動作をします。これは嬉しさの表現で、生きる喜びを身体いっぱい表しているのです。何時死ぬかわからないという現実の中で、子供たちは生きるということを大切にしているのです。子供たちはクリスマスの時、『ノダン ノドンダーヨー ジサス サンキュー ノトンダヨー』と歌っていました。これは『神様、今年も生きられました、ありがとう』という意味です。今年も死ななかった、今日を生きたことに感謝しているのです。」

この番組を拝見し、強く胸を打たれました。シェラレオネの子供たちの現状から、生きることの大切さ、命の重さをあらためて教えられました。皆さんはどう感じたでしょうか。

幹事報告： 西山幹事

- ・青少年交換委員長より 2004～05年度夏期交換学生募集要項（ドイツへ派遣交換）
既に4名決定のため2名追加募集します
- ・ロータリーの友委員会より 全日本会員名簿、ロータリー手帳お買いあげのお願い
手帳は1部600円、ご希望の方は回覧しますのでご記入下さい

新入会員入会式：

新入会員 プロフィール：

氏 名 青柳 康博

生年月日 昭和27年2月19日

会 社 名 青柳建築

役 職 名 代表

会社住所 三条市曲淵2-21-73

T E L 35-3954 F A X 35-3969

自宅住所 三条市曲淵2-21-73 T E L 35-3954

家族構成 知子（次女） 美智子（三女）



ニコニコボックス： 3日現在累計 695,000円

堀川正幸君 鬼が踊ると春が来る前ぶれでしょうか？春が楽しみです！

阿部勝子君 青柳様、お待ちしております宜しくお願い致します。

山崎勲君

大野新吉君 本日卓話の原先生宜しくお願いします。又本日より入会の青柳さん宜しくお願いします。会員の皆様方も宜しくね!!

落合益夫君 原先生の卓話に感謝して。

石川友意君 先週の新年会では当ホテルご利用ありがとうございました。

馬場直次郎君 ボックスに協力して。

米山奨学会：

山本賢君 世界理解月間原雄二先生ご講話感謝申し上げます。

西山斉君 新人会員青柳さんおめでとうございます。

小林繁男君 ズバイルくん身体にきおつけて。

*1月のコメント賞は佐藤弘志会員です

卓 話： 「3年前カンボジア国プノンペン市に建設した小学校校舎を振返っていま成すべきこと」 新潟大学名誉教授 原 耕二先生



去る平成14年3月14日、カンボジア王国プノンペン市ダンカオ郡地区在、オグラトロケアット小学校校舎建設贈呈式に私の実姉であるドナーと随行者5名（ドナーの2名の実弟夫妻と弁護士）で出席致しました。当日、カンボジアでは乾季に当たり快晴でしたが、一行が現地に午前8時に到着しましたとき、すでに気温は40℃近い炎天下でした。この猛暑にもかかわらずダンカオ郡地区から多くの老若男女、ボランティアの方々、特に5000名の児童が校庭に整列して日本の小旗を振りながら私共一行の出迎

えにしばし感動致しました。式典は僧侶の読経から始まり、次いでNPO（特定非営利活動法人）

「JHP・学校をつくる会」代表小山内美江子氏の挨拶があり、挨拶の主旨はカンボジアの内戦終結後、未だ復興は遅く、初等教育の現状としては授業を行える学校が全体の50%、現在1万以上の教室が不足しているため、今後ともカンボジアの教育復興活動に力を入れていくとの内容でした。「JHP・学校をつくる会」は戦争や自然災害で教育の機会を奪われた世界の子供たちに、人種、国籍、宗教等の違いにかかわらず広く教育面での援助を行う目的で1993年に設立した団体です。次にドナーの挨拶が始まりました。ドナーは歯科医師として55年前、東京に医院を開業いたしまして以来、医院は繁盛していましたが21年前に激症多発性関節リウマチに罹り手足が不自由となり、止む無く廃業し現在車いすの生活を続けています。病気と闘う「ばね」にするために、日頃からカンボジアの児童の教育と校舎の建設に何かしら貢献したい気持ちを持ち続けてきましたところ、朝日新聞ウィークリー「AERA」2000.5.15に小山内代表の人物像の記事が載ったことが縁で「JHP・学校をつくる会」を紹介され、晴れて本校舎建設が実現しました。謝意をもってその喜びとこの校舎で学ぶ児童から将来を担う良識ある社会人が少しでも多く輩出されることを期待していますとの内容でした。ついで、プノンペン市長、日本国大使館公使の挨拶が続き式典は無事終了しました。そのあと校舎前でのテープカット、記念撮影、校舎建物の披露、校庭内に設置された鉄棒やブランコなどの遊具作業に参加したボランティアの紹介がありまして、式は出席者全員が和気あいあいのうちに全過程を終了しました。

最後になりますが、式の当日、児童ならびに教員のための文房具の贈呈式が並行して行われたのを拝見しまして、私は今後とも毎年文房具の給付支援を続けることを「JHP・学校をつくる会」に約束しました。今年でこの支援は3年目になりますが、今年も文房具の贈呈式あるいは児童の授業風景のスナップ写真が現地から届きました。カンボジアの未来を担う子供達の喜ぶ姿や目の輝きを写真から拝見しまして、改めて平和の大切さ、教育の大切を実感しております。

注：ドナーとは学校建設資金の寄贈者のことです。

会 員 の 声： 妻はわが敵